

スコアアップの前に グッドゴルファー になろう

特集

● 本年からJGAハンディキャップがNEW JsysによるHd Coinテックスに切り替わりました。また9月には、世界アマチュアゴルフチーム権競技が

52年ぶりに日本で開催されます。ゴルフは16年リオ五輪、20年の東京五輪とオリンピックに牽引されるムードにあります。

● ゴルフは誰でも楽しめるスポーツです。国民皆スポーツとして広く健康のために奨励されています。ところ

ろが残念なことにゴルフアールの中には、上手くなくてもよいが何か欠けている人が多いのも事実です。それはエチケットとルールです。ゴルフは、紳士淑女のスポーツといわれるように、エチケットやルールが厳しく問われるスポーツで、これを認識してこそゴルフアールではないでしょうか。とくに「ゴルフ規則」第1章にエチケットとあるように、エチケットはゴルフの基本事項なのです。そもそもエチケットはメンバーが率先規範すべきことであります。それが倶楽部におけるメンバーゴルフアールの存在を強くアピールすることにもなり、倶楽部の格付けを上げるファクターであると思います。一部では、メンバーの存在は名ばかりのものになってしまっ、エチケットは乱れ、コースも荒れ、クラブの劣化を招いていることは残念でなりません。

● 倶楽部は公の場ではありませんが、趣味・嗜好の集いの場であり、だから「仲間のみんなが気持ちの良いゴルフを楽しんでいる倶楽部」には必ずグッドゴルファーがいっぱいいます。

ゴルフ紳士5カ条

1. 他人のプレーに干渉しない
1. 自分に厳しく、他人に優しく
1. トラブルは、あるがままか自分に不利な方法を選択
1. 必ずだれかが見ていることを知る
1. 能書きたれる前に練習せよ

(ゴルフ史家 夏坂 健)

スロープレーは
後続組全員に迷惑

ひとホール以上
空けないよう
心がけましょう



デビュー戦での衝撃

中日スポーツ編集委員

児玉 光雄

私がゴルフクラブを初めて握ったのは、約35年前のことである。

きっかけはマージャンに負けたりし屋の主人が「これで肩代わりしてくれ」と、当時ウイルソンのフルセットをくれた。クラブはしばらく部屋の中で眠っていたが、新聞社に入社してからまもなく、1人の先輩が川崎の多摩川河川敷の9ホールのゴルフ場に連れていってくれた。当時は予約制ではなく、早朝に並び、スタート順を取るシステム。ゴルフ場の近くに住んでいたその先輩はいつもその役目を引き受けてくれ、下手な後輩の面倒をみてくれる優しい先輩だった。

河川敷で筆おろしをすませた私は、まもなく会社のコンペに初参加することになった。場所は栃木のジュンクラシックだっと思う。当時のアパレルメーカーが経営していたコースで、確かマスターズを開催するオーガスタナショナルのように、18ホールの他にパー3コースが付帯していた。なかなか、洒落たコースで、プロのト

ーナメントも開催していた。いま思えば、河川敷コースで何度かプレーしていたとはいえ、初心者の私にはもったいないコースだった。

そのデビュー戦で一緒に回ってくれたのは、慶応ボーイのスマートなS先輩と、元中日ドラゴンズの選手で野球記者になっていたA先輩、そしてゴルフ記者だったT先輩である。特に選手上がりのA先輩はプロもどきの腕前をしているという評判だった。

「さあ、打つていいよ」と言われて、最初に打たされた私のボールは大きくスライスして、右の斜面の方に飛んでいった。次に先輩たちが打つていったのだが、中でもA先輩のドライバーショットには強烈な衝撃を受けた。まるでジェット機が離陸していくように、低く飛び出したボールはやがて空気抵抗で上昇を起し、視界から消えていくほど遠くに飛んでいったからだ。いまのボールよりやや小さかったスモールボールの時代である。

まもなく、私は2度目の衝撃

を受ける。ティーグラウンドから歩き始めた先輩3人が雑談をしながら、私の打った球の方向へ向かっていくのである。私は（ボールを捜しに行ってくれているのだ）と、とっさに思った。先輩たちは私より先にスタスタと歩いていき、ボールを捜してくれれば、何でもなかったかのように自分のボールのところへ別れていった。

その先輩たちは初心者の私に「ボールを捜せ」とか「打つたら走れ」と言ったことは二度もない。だが、何も言わなくても、そうしなければならぬマナーを無言の行動で教えてくれたんだと思う。あの時の強烈な光景は、いまだに脳裏に残っている。「他人に迷惑をかけること」がゴルフの一番大切なことだと思っている。周囲から「打つのが早い」とよく言われるが、「プレーが遅い」と言われることが嫌だからである。パットも、人のラインを踏むか、よほどの難しいラインではない限り、最初のマークしかしらない。せつかちな性格も

あるが、最初に受けた先輩たちの無言の教えのせいでもある。

最近指摘されるようになったスロープレーは、乗用カートの導入にも要因があるのではないかと思う。歩きだった時代は「さあ、クラブを数本持つて走れ」と言われなくても、走らざるを得なかった。いまは、まず、何を置いてもカートに乗る。2打目近くに來ても一緒にカートから降りない。一人目が打つのを待って、やつとカートから降りる。打ち終わると、さらにカートへUターン。この繰り返しではスロープレーになるのは当たり前だろう。セルフプレーならなおさらのこと。乗用カートの上手な使い方がスロープレーの撲滅につながるのではないだろうか。

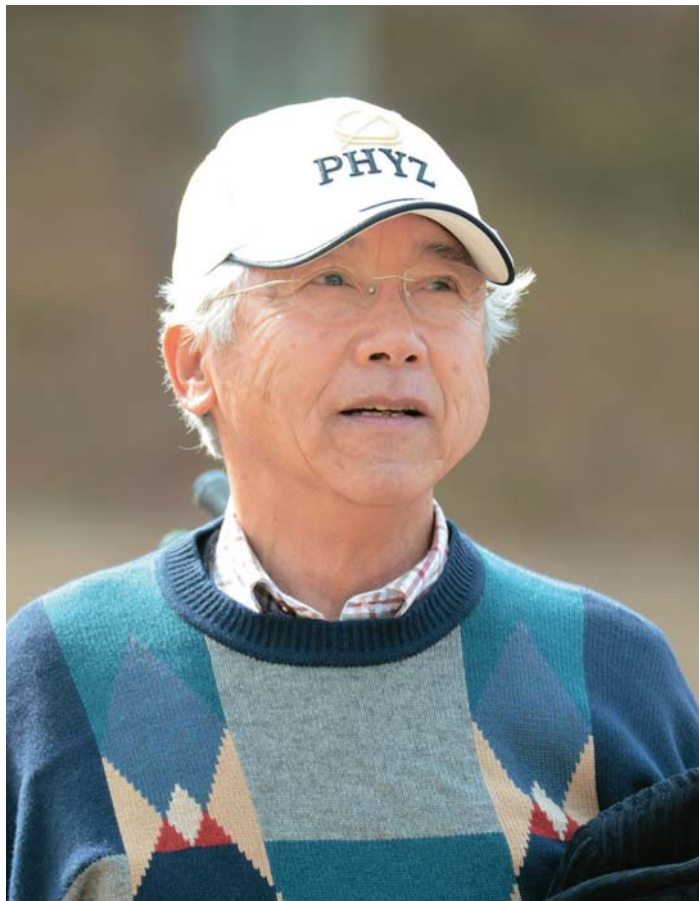
「金を払っているんだから、そんなに急ぐことはないじゃないか」と言う人がいる。後ろの組に迫られていても、何も感じない人がいる。別名を「自己中ゴルフファーク」といい、ゴルフをやる資格のない人たちのことである。



(こだま・みつお)

中日スポーツ編集委員。スポーツ記者としてプロ野球やゴルフ等を取材。中日ドラゴンズ出身、報道部長などを歴任し、現在、中部のアマチュアゴルフを取材している。1950年生まれ。

「ボールを拭きましよう」。
この一言でつけられたニックネームが
「とびきりの紳士」



昨年は、中部グランドシニア優勝。今年74歳を迎え、ますます意気盛んな後藤氏。

は2ダウンからの逆転優勝。日本人で初めての快挙であった。

その表彰式で主将の三木良雄氏は日本シニアゴルフ協会を代表して「他人のボールまでさげなく拭いて差し上げる、彼こそとびきりの紳士」と最高の誉め言葉で栄光を讃えた。しかし当の本人は、「私は、晴れた日にゴルフができれば幸せなんです」とてれくさそうであった。

後藤さんは、今年、74歳。世界シニア優勝はちょうど還暦の年であった。その翌年も優勝してアジア人で初の2連覇を達成した。30歳でゴルフを始め、41歳で初のクラブチャンピオン、以来獲得回数16回。ゴルフとしては晩熟のタイプである。2013年、中部グランドシニアで優勝。

シニアゴルフ協会では常務理事・国際委員長の要職にあるインターナショナルな顔をもつゴルフ親善大使である。

ある年の中部インタークラブでCGAの競技委員の一人が「四日市CCの選手たちは、どこことなく後藤さんのスイングに似ている」と言っていた。「私は、あれこれ注意



2002年、世界シニアゴルフ選手権で優勝した時のチャンピオンプレザーを着用した勇姿。

したりをしな
い。けれど尋
ねられればお
教えます」と
と。相手を尊
重することを
信条にしてい
るので、メン
バーからの信
頼も厚い。

昔はドライ
バー飛距離2
20ヤード、今
は200ヤ
ード維持が課題、
毎日、自分で
改良したエキ
スパンダーで左
腕を鍛え、ダンベルを持って脚の屈
伸運動、愛犬と3kmを散歩。これ
を日課にしている。洗面の鏡の前
に立てば両肩の回転を矯正、たえ
ずゴルフのことを考えている後藤
さん。「寝ても覚めてもゴルフのこ
とばかり」かもしれないが、容姿
からそんなそぶりは少しも受け
取れない。



尾崎将司と後藤氏。ホームコースで行われた日本オープン(1994年)での優勝した直後の撮影。本人自身も日本シニアオープン(1995年・北浦)でゲーリープレーヤーと同組でラウンド。ローアマを獲得。

日本シニアゴルフ協会
常務理事・国際委員長

後藤 弥平氏
(四日市カンツリー倶楽部)

2002年世界シニア選手権で優勝した時のこと。仲間とセルフで練習ラウンドをしていた後藤さん。グリーンに乗ったボールを濡れタオルで拭くと「あなたのボール

も拭きましよう」と、進んで他人のボールを清めた。

世界シニアゴルフ協会の提唱で行われている世界大会である。この年、後藤さんは初参加で250名の世界からの代表選手と闘い、予選を通過しマッチプレーの決勝トーナメントに進み、最後

日本シニアゴルフ協会とは

1963年、公財・日本ゴルフ協会(JGA)の重鎮野村俊吉氏を初代会長に、鍋島直泰、山形晋氏が世話役となり全国のシニアゴルファーのベテランを集めて発足。入会は会員2名の推薦、地区入会審査員、理事会の審査を経て認められる。なお後藤氏は、アジアを中心に活動する日本亜細亜シニアゴルフ協会の理事・競技委員長も務めている。

ゴルフが、もつともつと好きになつていくふたり

北原治美さんは40歳で初めてクラブを握った。子供からちよと手が離れたころ、「ゴルフでもやってみようかな」と軽い気持ちから仲の良い友達4、5人で一緒に練習を始めた。最初は球が当たらない。上手くならない。「教えてくれる人を選んで習おう」となつて

指導を受けたら球が飛ぶようになった。夢中になり過ぎるくらい面白くなった。

そんな時、東海クラシックの切符を友人からもらったので見に行ったら、アマチュアで知り合いの女性が出ていた。「アマチュアでもこんな試合に出られるんだ」。ゴルフにアマチュアの試合があるなんて思ってもいなかった

なので大変なカルチャーショックであった。「私も出たい。どうすればいいの」と心が吸い寄せられた。

治美さんは広島育ち。高校の時に水泳をやり、前の東京オリンピックを目標していたが叶わぬ夢となり、卒業後、体育大学に水泳入学するもモチベーションが保てず中退。

だから治美さんは競技が大好きだ。普通は「今度、ゴルフに行かない？」であるが、彼女の場

合は「新聞社の○○杯があるけど一緒に出ない？」である。

すると「もつと上の競技に出るには倶楽部に所属してHdcpをもらわないと出られないよ」と競技に出ている人が教えてくれた。夫に相談したら、「老後はふたりでゴルフ」という思いから治美さんを名古屋グリーンカントリークラブの会員にしてくれた。

会員になつた方がいいが、友達がない。どうしたら名古屋グリーンでプレーできるかわからない。メンバーなのに1年ちよと倶楽部でゴルフせずに過ごしていた時、愛知CCで行われたWペリア競技に参加した。偶然に同じような悩みを持つ名古屋グリーンの4人組と出会った。それからは仲間も増え、競技活動も順調にいった。

いま、ふたりはレイクグリーンゴルフクラブの会員となり時々夫ともゴルフを楽しんでいる。正必さんは「僕は競技が好きではない。でも仕事の師匠は私。ゴルフの師

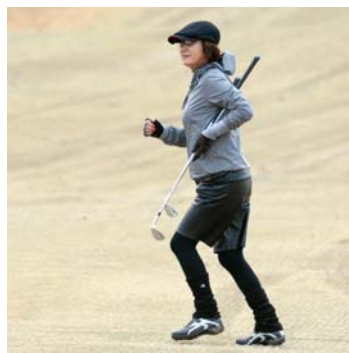


妻・北原 治美さん

(名古屋グリーンGCC、レイクグリーンGCC会員)

夫・北原 正必氏

(レイクグリーンGCC会員)



服装は、それぞれ自分の好みを優先。それこしてもふたりのコーディネートはベストマッチしている。

した。大きな進歩ですね」。

治美さんは「まだまだ飛距離を伸ばしたい」とひたすら体幹トレーニングを積んで本気でもっと進化しようとしている。彼女にはまだ人生でやり残したことがあるから。それは水泳では叶わなかったアスリートの夢。ゴルフなら今からでも遅くないと思つている。

「私の一番楽しい競技は中部女子ゴルフ研修競技会です」。そこには切磋琢磨する仲間がいる。治美さんは皆勤(14ヶ月)を更新中である。

名古屋で美容院を始め5店舗の美容室と無添加化粧品のお店を経営している北原ご夫妻。ふたりそろつてグッドゴルファーである。

※治美さんという東海クラシックは、男女同時開催の時のこと。

取材撮影協力/レイクグリーンGCC (2014年2月13日)

匠は彼女ですが不調の時は相談相手にもなつています」。

2002年と2010年に中部女子シニアで優勝。2012年に日本女子シニアで6位に入った。現在67歳の治美さんは、いまが絶好調のようだ。そこにはある秘密があつた。2011年に名古屋グリーンの仲間と宮崎へ1ヶ月間の合宿トレーニングに行った。「あの合宿で本当の意味でゴルフの楽しさがわかつた気がする」。夫の正必さんも「あの合宿の話はよく聞かされますが以来どうすべきか自分で考えられるようになりま

スコアアップの前に
グッドゴルファー
になろう



倶楽部の最年少エージシューターであり、最高齢スクラッチプレーヤー

Good Golfer

飯塚 登代治氏

(春日井カントリークラブ会員)



倶楽部の最年少エージシューターとなった飯塚氏。

「これからもエチケット、ルールを守り、倶楽部メンバーとして恥じないゴルファーを目指して精進したいと思います」。ゴルファーの優勝の弁では精進という言葉がよく使われる。そして飯塚氏もその一人であり、エージシューターとしてこれからの精進されることである。

してこれからの精進されることである。

当年68歳、2013年の8月19日にシニア杯で32・33＝G65というエージシューターを達成された。3イーグル、3バーディ、2ボギー。倶楽部の記録では一番若いエージシューターが誕生した。そして翌9月のハンディキャップ委員会でもdcp0が認められ、倶楽部最高齢のスクラッチプレーヤーとなった。



ナイスショットのディボット跡を目土する。
※千葉県ではNPO幸齢社会づくり協会でゴルフ場の目土を引き受けるボランティアグループがある。



特製目土袋はエージシューター祝賀コンペの記念品

ゴルフを始めたのが28歳(1974年)、評論家の大宅壮二がゴルフ場を「緑の待合所」と揶揄、「ゴルフはサラリーマンの必須」とまでおられた時代。大学を卒業して大手文具会社に就職し、名古屋から北陸地区の営業担当に転勤、ゴルフとの出会いはその時からである。「あの時代は、お客さまとゴルフのお付き合いをしていれば販売成績が上がりました」と古き良き時代を懐かしむ。飯塚さんは、すでに名古屋の繊維問屋のオーナーの娘さんと結婚しており、舅さんから跡継ぎを懇願されていた。舅もゴルフが好きでリオフジワラの会員権を用意していたので時機を見計らって世話になった。

繊維問屋であるが少数の会社、先の会社のようにゴルフ三昧とはいかなかったが、几帳面な性格と中学生の時にテニスの選手で

ない」。スコアアップの秘訣はここに

ある。
「めつち会」というプラコンを始めたのも飯塚さん。「目土をしなから歩くとそれがショットのリズムになるから楽しいもんです」と奨励している。最近では近郊の倶楽部でも増えているようだ。これもシングルプレーヤーならではの品位のあるゴルフであろう。13年12月のエージシューター祝賀会では特製の目土バッグが記念品として配られた。この分ていくと70歳を越えるとエージシューターの連発が期待できそう。

【戦歴】

- 2008年／三重県オープン・ローアマ
- 2009年／愛知県シニア3位・日本スポートスマスターズ出場
- 2010年／全日本パブリックシニア9位タイ
- 2012年／中部シニア52位、ミッドシニア34位
- 2013年／西コースで65、エージシューター達成

スコアアップの前に
グッドゴルファー
になろう

